

令和4年度 中学校教育課程研究協議会 特別活動部会



令和4年7月13日（水）
岐阜県教育委員会

1 学校は人と人が関わり合う一つの社会

学級活動

学級生活の充実と向上に向け、他者と協働しながらよりよい学級や学校生活をつくる

人との関わり方、将来の夢の実現など

生徒会活動

全生徒で組織し、自発的、自治的に活動することを通して学校生活を楽しく豊かにする

生徒総会など

学校行事

地域や自然との関わりや、多様な文化や人との触れ合いを通して、学校の文化をつくる

修学旅行・体育大会など

2 特別活動で育てる資質・能力の重要な3つの視点

違いを認め合い、みんなと共に
生きていく力

人間関係形成

(学級活動、生徒会活動を通して)

社会参画

よりよい集団や社会をつくろう
とする力

自己実現

なりたい自分に向けてがんばる力

3つの視点は密接に関連。明確に区別されない。

3 特別活動における「見方・考え方」

集団や社会の形成者としての見方・考え方



(例)

- 年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合おうとする見方・考え方
- 互いのよさを生かすような見方・考え方
- よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする見方・考え方
- 集団での関わりを通して、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力を養うとともに、自己の在り方・生き方を考え設計しようとする見方・考え方

など

4 特別活動における資質・能力の3つの柱

① 特別活動で育てる「知識及び技能」

- 話合いの進め方
- よりよい合意形成や意思決定の方法
- 協働して実践するための役割分担の方法
- 学級活動（2）（3）に係る必要な知識や技能
- 学校行事の意義

など

4 特別活動における資質・能力の3つの柱

② 特別活動で育てる「思考力、判断力、表現力等」

- 解決すべき問題を発見する力
- よりよい合意形成や意思決定する力
- 人間関係をよりよくするための力
- 様々な場面で多様な他者と協働しようとする力
- 今の自分や、将来なりたい自分を追求しようとする力
など

4 特別活動における資質・能力の3つの柱

③ 特別活動で育てる「学びに向かう力、人間性等」

- 多様な他者と関わる集団の中で、人間関係を自主的かつ実践的にによりよいものにしていこうとする態度
- 集団や社会の形成者として、よりよい学級・学校生活づくりを目指して集団や社会に参画して主体的に問題を解決しようとする態度
- 多様な他者との違いや多様性を認め、生かし合いながら協働して活動に取り組もうとする態度
- 現在及び将来の自己の課題を発見し改善して、よりよい生き方を追求していこうとする態度

など

5 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現

「どのような活動を仕組むと実現できるか？」



① 「主体的な学び」の実現

- 学級・学校生活をよりよくしていくために、何に取り組んだらよいか、自分たちで探っていく活動
- 話合いで決まったことを、友達と協力してよりよく実践する活動
- 話合いを通して見つけた課題解決の方法から自分がかんばることを決め、自主的に実践する活動

など

5 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現

「どのような活動を仕組むと実現できるか？」



② 「対話的な学び」の実現

- 学級活動等において、集団活動を進める上での合意形成を図ったり、話し合い活動を通して他者の考えに触れ、自分の考えを広げたり、多面的・多角的に考えたりして、個人目標の意思決定を行ったりする活動
- 異年齢や多様な他者との対話、地域の人との交流を通して、自分の考えを広げたり、自己理解を深めたりする活動

など

5 特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現

「どのような活動を仕組むと実現できるか？」



③ 「深い学び」の実現

- 実践について話し合い活動等を通して振り返り、よい点や改善点を見だし、新たな課題の発見や目標の設定を行ったり、自分のよさやがんばりに気づき、自己肯定感を高めたりする活動
など

授業における「振り返り」の場も重要な機会

6 特別活動における指導と評価の一体化

生徒のよさや可能性を伸ばす評価の工夫

特別活動の評価において、最も大切なことは、生徒一人一人のよさや可能性を生徒の学習過程から積極的に認めるようにするとともに、特別活動で育成を目指す資質・能力がどのように成長しているかということについて、各個人の活動状況を基に、評価を進めていくということである。

(『中学校学習指導要領解説 特別活動編』第4章第5節)

6 特別活動における指導と評価の一体化

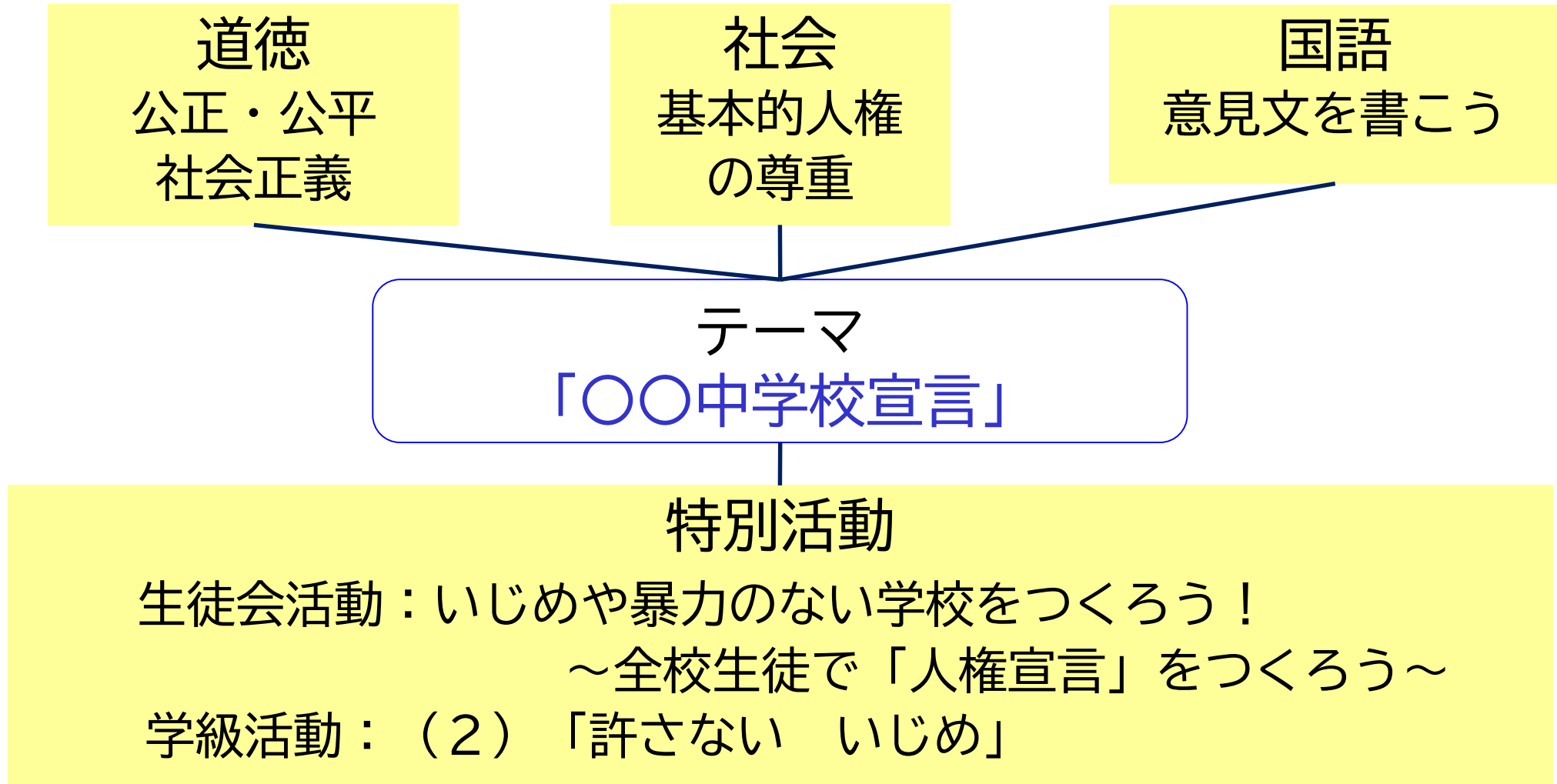
生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもつことができるようにするために

- 活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりするようにする。
- 生徒の活動意欲を喚起する評価となるよう、生徒自身の自己評価や集団の成員相互による評価などの学習活動を大切にする。
- 自己評価の活動としては、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことができるよう、生徒自らが活動を記録し、蓄積することができるように工夫することも考えられる。

7 カリキュラム・マネジメントの推進

- ◇ 教科横断的なテーマに即して、教科等との関連を図りつつ特別活動にしかできない指導を行う。

(例)



7 カリキュラム・マネジメントの推進

◆学級活動（2） 「卒業生としての自覚」 の例

「国語など授業で、自分の考えを堂々と仲間に伝えることをがんばってきた。」→卒業生を送る会では学んだことを生かして、後輩に向けてのメッセージを全校の前で堂々と発表したい。

教科等

学校生活

「どんなことにも学級の仲間と協力して乗り越えられてよかったな。」
→卒業生を送る会を、学級の仲間との集大成の会にしたい。
学級のみならず、会を絶対に成功させよう。

家庭生活

「自主学習ノートを毎日提出することができた。」
「地域のボランティア活動に率先して参加できた。」
→もうすぐ卒業するんだという自覚が、少しずつ自分に生まれてきた。

～卒業生を送る会を成功させよう～

特別活動

学級活動

みんなで話し合っ、合唱の取組をがんばった。後輩たちに〇〇中学校の伝統が伝えられるといいな。

生徒会活動

中学生として付けた力を、卒業しても発揮したい。

学校行事

体育大会では、～のリーダーとして自分のよさを発揮できた。支えてくれた後輩には、感謝の気持ちを伝えたい。

特別活動における効果的なICTの活用について



○ 特別活動におけるICT活用

「なすことによって学ぶ」が指導の方法原理

子どもたちの

- ・ 学習の場を広げたり
- ・ 学習の質を高めたり
- ・ 思考を広げたり、深めたりするよう活用

- ・ 「集団活動」「実践的活動」の代替であってはならない。

○ 特別活動におけるICT活用

学級活動「話し合い活動」

① 問題の発見
・ 確認

② 解決方法等
の話し合い

③ 解決方法の決定

⑥ 次の課題
解決へ

⑤ 振り返り

④ 決めたこと
の実践



○ 特別活動におけるICT活用

学級活動「話し合い活動」

①問題の発見・確認

(例)

・タブレット端末で様々な学校生活の場面を撮影、生活上の課題を把握

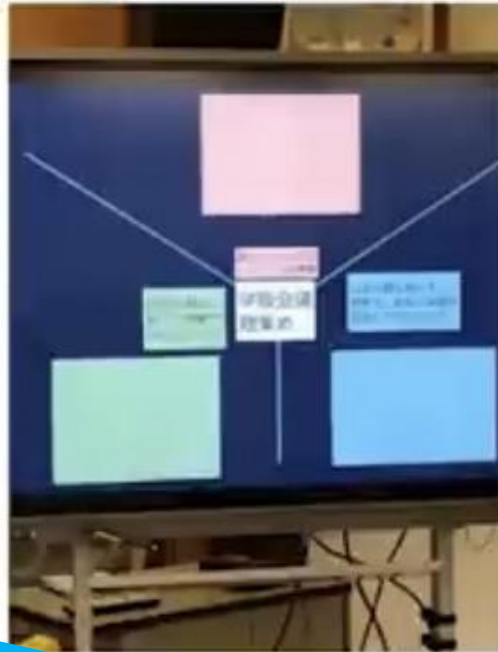
・インターネットを利用して、進路の問題や社会の問題などについて見だし、共有するなど



○ 特別活動におけるICT活用

学級活動「話し合い活動」

②解決方法等の話し合い



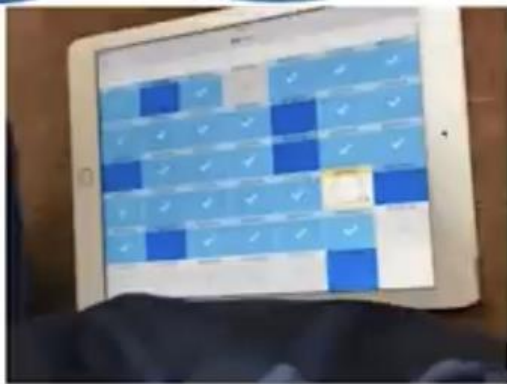
(例)

- ・ タブレット端末や電子黒板等を活用して、個人の意見を表明する
- ・ 意見の分類・整理を行ったり、出された意見を比べ合ったりするなど

○ 特別活動におけるICT活用

学級活動「話し合い活動」

③解決方法の決定



(例)

- ・ タブレット端末や電子黒板等を活用して、課題解決のために話し合い、合意形成や意思決定に向かう
- ・ その際、全員の意見を把握する。また、多様な意見を生かす
- ・ 友達の意見を参考にして、自分の意見を修正する

など

○ 特別活動におけるICT活用

生徒会活動・学校行事

- ・ 生徒会選挙では、スピーチでタブレット端末を使用
- ・ 遠隔地では、他校の児童生徒とテレビ会議
- ・ ボランティア活動や異年齢交流に活用
- ・ 生徒総会…集計や意見表明の時間短縮や合理化
→話し合い活動の充実につなげる
- ・ 体育的行事、文化的行事…タブレット端末で自分のパフォーマンスを振り返ったり、先の練習を見通したりする
- ・ 学習発表会…タブレット端末を駆使してプレゼン
- ・ 学校行事を生徒の手で記念VTRに編集する活動 など

生徒会専門委員会でのスピーチ



体育祭



合唱コンクール



生徒総会での合意形成



生徒の「自己肯定感」
「自己有用感」を高めるためには



○ 「自己肯定感」と「自己有用感」

「自己有用感」を育む特別活動

特に、学級活動（1）で

- ・生徒が互いに協力し合い認め合う中で、自分が仲間の役に立つに存在であることを実感し、自分のよさや可能性を発揮して自信をもつようになる
- ・振り返りにおいて、自分のがんばったことが認められる
- ・成長を称賛される
- ・他者との関わりや他者からの評価によって仲間から必要とされていることや役に立っていることを実感する

生徒

こうした成功
体験によって、
「自己有用感」
が高まる

○ 「自己肯定感」と「自己有用感」

「自己有用感」を育む特別活動のポイント

- ①係活動や委員会活動、各種の当番活動等においては、全ての生徒が役割を果たす経験ができるよう、活動の内容や方法を工夫すること
- ②異年齢の交流活動を効果的に進めるためには、異年齢でなければできない活動を設定し、生徒にどのような場を与え、どのように働きかけるかを工夫して指導すること

○ 「自己肯定感」と「自己有用感」

「自己指導能力」を育む特別活動

特に、学級活動（２）や（３）で

「自己決定の場を与える」こと

= 生徒指導の機能を大事にしていること

- ・ 教師から提示された課題を自分の課題として受け止める
- ・ 原因を追求し、解決への意識を高める
- ・ 解決方法を話し合いを通して考える
- ・ 自己の努力目標を決める（意思決定）



生徒
自己実現の
喜び

★ 本日紹介した資料のホームページアドレス

- 小学校特別活動映像資料（学級活動編）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku/sho_tokkatsueizo/index.html

- 学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j_leafb.pdf

- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_tokubetsuk.pdf

- 岐阜県版キャリア・パスポート

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61875.html>

■ 教育課程研究協議会アンケート

画面に示す「二次元コード」又はチャット機能で送付する「URL」にアクセスして回答する。

- ◇複数名で端末を使用している場合も、一人一人がアンケートに回答する。
- ◇研修申し込みシステムには、「研修終了後アンケート」及び「還元度アンケート」に回答するように表示されるが、この2つのアンケートには回答不要。

